

6年制課程修了者対象の初の 薬剤師国家試験実施要綱が決定

医道審議会薬剤師分科会が第97回国試の試験期日等につき了承



平成23年7月27日に開催された医道審議会薬剤師分科会の様子

厚生労働省（以下「厚労省」）内の医道審議会薬剤師分科会（分科会長 望月 正隆 東京理科大学薬学部教授。本会からは児玉会長が参画）は、平成23年7月27日（水）会議を開き、薬学6年制課程修了者が初の受験となる次回の第97回薬剤師国家試験（以下「国試」）の試験期日、試験地等について協議しました。協議のうえ、試験期日等について、この日厚労省事務局より提出された原案通り了承され、これをもって第97回国試の実施要綱が固まりました。

第97回薬剤師国家試験実施要綱（抜粋）

- **試験期日**
平成24年3月3日（土曜日）及び同月4日（日曜日）
 - **試験地**
北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、大阪府、広島県、徳島県及び福岡県
 - **合格発表日**
平成24年3月30日（金曜日）
- * 上記は平成23年8月31日付官報を一部抜粋・編集のうえ掲載したものです。

6年制課程修了者が受験を開始する、次回の第97回国試から、出題数や出題方法等が大幅に変更されます。本号では、新たな国試の概要やモデル問題等を参考として紹介しています。

薬学生NEWS No.5 CONTENTS

- 6年制課程修了者対象の初の国試実施要綱が決定……………1
- 日本薬学生連盟執行部が本会を訪問……………3
- 第10回アジア太平洋薬学生シンポジウム、第57回世界薬学生会議…4
- 日本薬学生連盟公衆衛生委員会が大麻博物館見学会を実施…5
- 東日本大震災 インタビュー活動を通じて学んだこと……………6

新たな薬剤師国家試験の概要

新たな国試の出題数や出題方法といった試験制度に関する事項については、医道審議会薬剤師分科会内の「薬剤師国家試験制度改善検討部会」において、同じく出題基準に関しては、「薬剤師国家試験出題基準改定部会」において、協議のうえ、既に報告書としてまとめられています。新たな国試の概要は以下のとおりです。

* 以下は、下記参照資料等の一部を編集部にて抜粋・編集のうえ、まとめたものです。詳細につきましては、各自で厚労省HP等にて確認願います。

【参照資料】

- 「新薬剤師国家試験について」（平成21年12月 薬剤師国家試験制度改善検討部会作成）
- 「薬剤師国家試験出題基準」（平成22年9月 薬剤師国家試験出題基準改定部会作成）
- 「平成22年1月20日付薬食発0120第12号厚労省医薬食品局長通知（平成23年6月15日付薬食発0615第1号にて一部改正）」

(1) 出題分野について

従来のような科目ごとの出題ではなく、医療の担い手である薬剤師として特に必要不可欠な基本的資質を確認する「必須問題」と、薬剤師が直面する一般的課題を解釈・解決するための資質を確認する「一般問題」に区分（「一般問題」については、「薬学理論問題」及び「薬学実践問題」に更に区分）したうえで、科目については、「物理・化学・生物」、「衛生」、「薬理」、「薬剤」、「病態・薬物治療」、「法規・制度・倫理」、「実務」とすることとなりました。

そして、「一般問題」のうち、「薬学理論問題」は「実務」を除く科目で行うこと、「薬学実践問題」は、「実務」に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題とすることとなりました。

(2) 試験問題数

従来为国試では240問でしたが、新たな国試において、試験問題数は「必須問題」が90問、「一般問題（薬学理論問題）」が105問、「一般問題（薬学実践問題）」が150問で、合計345問と、大幅に増加します。その内訳は次表の通りです。

なお、薬学実践問題は、「実務」20問に加え、「実務」とそれ以外の科目とを関連させた複合問題130問とされています。

| 科目 | 問題区分 | | | | 出題数計 |
|----------|------|--------|--------|---------------------------|------|
| | 必須問題 | 一般問題 | | | |
| | | 薬学理論問題 | 薬学実践問題 | | |
| 物理・化学・生物 | 15問 | 45問 | 30問 | 15問 (複合問題) | 60問 |
| 衛生 | 10問 | 30問 | 20問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| 薬理 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| 薬剤 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| 病態・薬物治療 | 15問 | 25問 | 15問 | 10問 (複合問題) | 40問 |
| 法規・制度・倫理 | 10問 | 20問 | 10問 | 10問 (複合問題) | 30問 |
| 実務 | 10問 | 85問 | — | 20問 + 65問 (複合問題) | 95問 |
| 出題数計 | 90問 | 255問 | 105問 | 150問 | 345問 |

(3) 試験時間

| 時間 | 問題区分及び科目 |
|-----|---|
| 第1日 | 9:30～11:00 必須問題試験 (物理・化学・生物、衛生、薬理、薬剤、病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務) |
| | 12:30～15:00 一般問題試験(薬学理論問題) (物理・化学・生物、衛生、法規・制度・倫理) |
| | 15:50～17:45 一般問題試験(薬学理論問題) (薬理、薬剤、病態・薬物治療) |
| 第2日 | 9:30～11:35 一般問題試験(薬学実践問題) (物理・化学・生物、衛生)【実務】* |
| | 13:00～14:40 一般問題試験(薬学実務問題) (薬理、薬剤)【実務】* |
| | 15:30～18:00 一般問題試験(薬学実践問題) (病態・薬物治療、法規・制度・倫理、実務)【実務】* |

※【実務】は、実務以外の科目と関連させた複合問題として出題されるもの

(4) 出題形式及び解答形式

新たな国試では、正答肢を選択する問題(一問一答形式、正答の設問肢が一つではない形式又は解答肢の全ての組合せの中から正答肢を選択する形式)を基本としますが、そのほか、実践に即した問題抽出・解決能力を確認する観点から、実践の場で取り得る解答肢の中から最も適切なものを選択する問題や、明らかに誤りである解答肢や重要性が低い解答肢を選択する問題なども出題されます。また、「必須問題」などの場合にあっては、設問の正誤を一問一答形式で問うことを基本とすることとされています。

(5) 合格基準

以下のすべてを満たすことが合格基準とされています。

- ①全問題への配点の65%を基本とし、問題の難易を補正して得た実際の総得点以上であること。
- ②一般問題について、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の35%以上であること。
- ③必須問題について、全問題への配点の70%以上で、かつ、構成する各科目の得点がそれぞれ配点の50%以上であること。

薬学6年制に対応した国試のモデル問題

薬学6年制課程修了者が受験する新たな国試に関しては、平成21、22年度に厚生労働科学研究として、出題の標準化、問題の質の向上等を目的に「薬学教育6年制に対応した国家試験の円滑な実施のための問題作成の在り方に関する研究」(主任研究者 東京薬科大学薬学部 笹津 備規 教授(*役職は当時))が、実施されました。本研究では、研究活動の一環として両年度共にモデル問題が作成されておりますが、参考までに、平成22年度研究報告書より抜粋したモデル問題を、編集のうえ、以下に掲載します。

〈留意事項〉

- *以下に掲載の問題は、モデル問題として作成されたもので、このままの形式で出題されるわけではありません。また難易度、出題される範囲についても、必ずしもこの通りになるものではありませんので、あくまで参考としての位置付でご理解願います。
- *モデル問題を掲載した上記研究報告書冊子は、全薬科大学・薬学部へ送付されております。

モデル問題①【一般問題(実務(薬局))】

※上記報告書P155～156より抜粋

分野：実務(薬局)

出題範囲の細目：薬局実習

出題範囲のユニット：薬局カウンターで学ぶ

【作成意図】

一般用医薬品は標準的な販売手順に基づき、来局者から情報収集を行い販売をする。第1類医薬品に関しては、医師の確定診断がついている患者にのみ販売できる医薬品があり、注意を要する。一般用医薬品についての総合的な知識を問う問題である。

問題

昨日から<図1>のような水泡を伴う発疹で口唇のピリピリ、チクチク感などの不快な症状が出ていることを訴えて、一般用医薬品を求めて消費者が来局した。このような症状が出たことは初めてとのことであった。薬剤師は、口唇ヘルペスと判断した。

この来局者への対応として明らかに誤っているものを1つ選べ。

<図1>



注)アクチビア軟膏は一般用医薬品(第1類医薬品)で、その有効成分はアシクロビル

注)アクチビア軟膏(一般用医薬品 第1類医薬品 有効成分アシクロビル)

- a. 現在服用している薬を確認した。
- b. アクチビア軟膏を文書を用いて説明して販売した。
- c. 患部を清潔にして、水泡を破ったり、刺激しないように指導した。
- d. タオルなどを他の人と共用をしないように注意した。
- e. 一般用医薬品等の販売をせず受診勧奨をおこなった。

【正解】 b

【解説】

b. アクチビア軟膏は、過去に医師の診断・治療を受けた方であって、今回の症状が再発によるものと考えられる場合に販売できる薬であり、症状が出たのが初めてとのことなので、販売することができない。

モデル問題②【一般問題（薬剤及び実務分野の複合問題）】

※上記報告書P205～206より抜粋

(1) 分野：薬剤

出題範囲の細目：薬の効くプロセス

出題範囲のユニット：薬物の臓器への到達と消失

(2) 分野：実務

出題範囲の細目：実務実習事前学習

出題範囲のユニット：服薬指導と患者情報

【作成意図】

問1は、種々の脂質異常症治療薬の作用機序および体内動態に関する知識を問う問題である。問2は、代表的な脂質異常症治療薬であるシンバスタチンの副作用への対処方法に関する実践的な問題である。

問題

63歳男性、脂質異常症のため、運動療法・食事療法を継続していたが、LDL- コレステロール値の低下が不十分であったため、薬物治療を開始することとなった。脂質異常症に関する治療薬について、下記の問いに答えよ

問1（薬剤） 下記に示す脂質異常症治療薬の作用機序および体内動態について誤っているものを1つ選びなさい。

- a. コレステラミンは、腸で胆汁酸を吸着して、腸から再び吸収されるのを抑えることで、血液中のLDL コレステロー

ル値を下げる。

- b. エゼチミブは、小腸のコレステロールトランスポーターを阻害することでLDL コレステロール値を下げる。
- c. プラバスタチンは主にCYP3A4 による代謝により消失するのでイトラコナゾールとの併用による血中濃度上昇に注意する必要がある。
- d. アトルバスタチンは、CYP3A4 を介した代謝を受けるためリトナビルとの併用は避けることが望ましい。
- e. ベザフィブラートは腎排泄型の薬剤であり、人工透析患者には禁忌である。

問2（実務） 患者は、1日1回、夕食後にシンバスタチン（5mg）1錠の服用を開始した。服用開始後、筋肉痛の症状があると訴えがあった。薬剤師の対応として最も適切なものはどれか。

- a. 患者に、同時に納豆を食べていないかを確認し、以後は同時に摂取しないよう指導する。
- b. 患者に、薬剤の副作用の可能性を伝え、早急に主治医を受診することを勧める。
- c. 患者に、シンバスタチンの用量を半量にして服薬を続けるよう指導する。
- d. 医師へ照会を行い、シンバスタチンをクロフィブラートに変更することを提案する。
- e. 医師へ照会を行い、湿布薬の追加処方を提案する。

【正解】 問1: c、問2: b

【解説】

問1

- c. プラバスタチンはCYP3A4 による代謝を受けない。他の選択肢は正しい。

問2

- a. ビタミンK を多く含む納豆との相互作用は報告されていない。
- b. 横紋筋融解症の可能性を考え、受診が必要である。
- c. 薬剤師が、用量の変更を患者に提案することはできない。
- d. クロフィブラートにも横紋筋融解症の副作用報告があるため、提案はできない。
- e. 副作用の横紋筋融解症の可能性が考えられ、この対症療法は提案できない。

日本薬学生連盟執行部が日本薬剤師会を訪問

平成23年9月14日（水）、日本薬学生連盟の野畑代表をはじめとする4名が、本年度の同連盟執行部紹介及び活動報告等のため、東京・四谷にある本会を訪問し、本会では、児玉会長および生出席副会長等が対応しました。

同連盟関係者からは、最近の活動報告と共に、日本中に薬学生の輪を広げ、将来的

には薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂等について学生側の意見や提案を発信するような活動等も目指したい、といった抱負が述べられました。本会児玉会長からは、「薬剤師の将来を担うのは皆さん方薬学生である。私自身、百の言葉より一の行動と常々考えており、今後の諸活動につき是非頑張ってください。」などとエールが送られました。



児玉会長を囲んでの記念撮影

第10回アジア太平洋薬学生シンポジウム(APPS)、第57回世界薬学生会議(IPSF-World Congress)

参加者レポート | 日本薬学生連盟・国際交流副委員長 城西大学2年 仁宮 勇人



APPS参加者が一堂に会しての集合写真



IPSF-World Congressでのワークショップにて

第10回 APPS (アジア太平洋薬学生シンポジウム)

期 間：2011年7月2日～8日

開催国：インドネシア (ジョグジャカルタ)

第57回 IPSF-World Congress (世界薬学生会議)

期 間：2011年8月3日～13日

開催国：タイ (ハートヤイ)

●アジアの薬学生が集まるシンポジウム

薬学生の皆さんこんにちは、日本薬学生連盟・国際交流副委員長の仁宮です。今回私は日本薬学生連盟の国際活動として、7月にインドネシア(ジョグジャカルタ)で行われた第10回APPS(アジア太平洋薬学生シンポジウム)と8月にタイ(ハートヤイ)で行われた第57回IPSF-World Congress(世界薬学生会議)に参加してきました。

APPSはIPSF(世界薬学生連盟)のアジア支部が中心となって開催し、今年度は10カ国約150名、日本からは3名が参加しました。またIPSF-World CongressはIPSFが主催する世界規模の会議で、今年度は過去最高の51カ国400名以上の薬学生がタイに集結し、日本からも昨年を大きく上回る24人の薬学生が参加しました。

●どんなことをするのか?

主に世界各国の薬学生団体の代表がGA(General Assembly)と呼ばれる総会の場で、来年度運営方針の協議、規約の改定、役員選出、各国の活動報告を行う傍ら、大学や企業の方によるエイズ・糖尿病・偽薬問題等のワークショップ、PCE(服薬指導に関するイベント)、各国の学生が作り上げたポスターを披露する展示会、大学の研究室のツアー、禁煙キャンペーン活動などが行われました。その他、ダンスや歌で各国の文化を紹介するイン

ターナショナルナイトや、世界の国々の伝統品が出品されるオークションナイトなど、様々な交流を深めるソーシャルイベントが連日連夜行われました。

●意識の高い世界の薬学生

私はこの会議に参加する中で、自分が薬学生であることに誇りを持ち、将来医療人として生きていくという強い覚悟と、高い意識や倫理観を持って行動している海外の学生の姿に、私は圧倒されました。会期中に行われた講演では海外の学生の積極的な質問が飛び交い、ディスカッション形式の催しでは活発な議論が繰り広げられました。

このような海外の学生の姿を目の当たりにした私達24人の日本人薬学生は、もっと自国の医療システムや薬学事情を理解し、十分な知識と語学力をつける必要性を感じました。そして私個人としては、今回仲良くなりFacebookで繋がった多く

の海外の友人達とは絶えず連絡を取り合い、情報の窓口を広げることで、常に世界基準の問題意識も持てる医療人を目指したいと思いました。

最後に、今回のAPPSやIPSF-World Congress参加にあたり、薬学生の国際活動に理解を示し、講義や試験の日程を調整して下さった多くの先生方に感謝したいと思います。

来年のAPPSは台湾(7月3日～7月9日)、IPSF-World Congressはエジプト(8月1日～8月10日)で行われます。また、2013年におけるAPPSは、念願の日本での開催です。是非皆さんも価値観や視野を広げる一歩を踏み出してみませんか?



APPSにて地元の史跡をバックに記念撮影



IPSF-World Congress 禁煙キャンペーン



IPSF-World Congressの日本人参加者全体写真

日本薬学生連盟公衆衛生委員会が大麻博物館見学会を実施

私達公衆衛生委員会は薬学生という視点から公衆衛生を考え、社会へ貢献できる活動を行い、その活動を広めていくことを目的に設立されました。

今回、最近ニュースなどで大学生が大麻を不正所持しており逮捕などの報道が目立っていることを受けまして、大麻について調べてみたところ、大麻には葉や花穂には依存性のある成分が入っていますが、大麻の実には七味唐辛子などにも入っており、食べることができるということを知りました。私達はもっと詳しく大麻について学ぶため、2011年8月7日に栃木県那須町にある大麻博物館に行きました。ここでは日本で唯一の大麻だけの博物館で、そこで大麻の歴史などを学びました。

その後場所を変え市販されている麻の実を用いて料理を作りました。メニューは麻ミルク、ポテトサラダ、ハンバーガーです。

これらは麻をゴマすりで細かくし、お湯につけ、絞ったものをミルクとして、残ったおからを炒ってポテトサラダとハンバーガー

に使用しました。これらの料理を作り終わり、みんなで食べたところ、麻ミルクはきな粉のような味で、ポテトサラダとハンバーガーは麻の味をあまり感じるできませんでした。

しかし食べ始めてすぐに満腹感を感じ始めました。麻の実の成分表をみるとなんと30gで180KCalもありました!ご飯一杯が約200KCalで、皆さんハンバーガーだけで75gとっているもので少量で満腹感を感じたのは当然でした。

このように私たち公衆衛生委員会は月1程度の割合で活動しています!! 9月はみんなで献血の重要さなどを学び、実際に献血に行く企画を行います!! もし公衆衛生委員会に興味があれば下記まで連絡ください!

.....
文責 日本薬学生連盟 (APS-Japan) 公衆衛生委員会委員長
国際医療福祉大学3年 藤岡 賢三
publichealth@apsjapan.org



左が集合写真、右が作った料理です。

【参考】

○日本薬学生連盟 (APS-Japan)

「世界に貢献できるPharmacistsの育成」のスローガンのもと、学生のうちから社会に貢献していこう、薬学を考えよう、という意識を持った学生が集まり、地域に根ざした活動から国際活動まで幅広く活動している日本で唯一の全国的薬学生組織。大学や学部の垣根を越えた交流、活動、情報共有の場を提供している。

○IPSF (国際薬学生連盟)、 APRO (アジア太平洋地域支部)

IPSFとは1949年ロンドンにて8カ国の薬学生によって創設された世界でもっとも古い国際学生組織である。所属会員数は世界79カ国、35万人に上り、将来の薬剤師の育成に貢献している。IPSF-World Congress (世界薬学生会議)には毎年300~450人の薬学生が集まる。またIPSFのアジア支部であるAPROは、毎年アジア加盟国でAPPS (アジア太平洋薬学生シンポジウム)を開催している。2013年のAPPSは、日本での開催が予定されている。

告知

全国の薬学生が集結!! 日本薬学生連盟 第13回 年会開催!!

日本中から沢山の薬学生が集まる……。それが日本薬学生連盟の年会。そう!「薬学生の集い」!今回は第13回年会を迎えます。また、今回の年会は日本薬学生連盟となってから初めての年会となります。企画の中には薬学生の興味を引くような魅力的な企画が満載です!大学では味わえない企画が沢山です。一緒に薬学について考えませんか?

日時:2012年3月9日~11日(金曜日、土曜日、日曜日)

日程については変更の可能性がありますので、詳細については日本薬学生連盟HPをご覧ください。
日本薬学生連盟HP: <http://apsjapan.org/>

募集

日本薬学生連盟で活動してみませんか??

全国津々浦々、様々な大学の薬学生が所属するインカレ団体。明日の薬学生のために、そして私たちの薬学生生活をより充実させるために活動しています。活動は地域を問わず、国際的にも活発に活動しています。お問い合わせは事務局まで。
日本薬学生連盟事務局: apsjapan@apsjapan.org

*前号で、慶應義塾大学の薬学生である桐山純奈さんが、震災支援活動に携わる団体や個人への取材活動に取り組み、その一環で本会を取材で訪れた件は紹介しましたが、今般桐山さんに、取材活動全般を振り返ってのレポートを寄稿いただきました。

東日本大震災 インタビュー活動を通じて学んだこと

慶應義塾大学薬学部薬学科3年 桐山純奈

インタビュー活動を始めた経緯

震災発生後から、私は無力感を感じていました。医療従事者の方々は、誰よりも早く被災地へ向かい人命救助に当たっているのに、私は薬学生として家でテレビを見ているだけでいいのか…そんな思いがありました。被災から1週間経ち、将来また大規模災害が起こった時に貢献できる人材を増やすためには、今のうちから生の声を集めておく必要があると感じ、大学の先輩が立ち上げた被災地支援に関するメーリングリストを用い、大学の医学部・薬学部・看護医療学部生からインタビュー活動に賛同してくれる有志を募りました。人の上に立ち、企画を練ることやインタビューを行うことは初めての機会でしたが、お忙しい中協力してくださる団体の方が多く、現在病院含む約20団体23名程の方々にお話を伺うことができました。



インタビューの様子



作成した手洗い啓発ポスター

実際に被災地へ行ってみたい

被災地へ行かれた方々にお話を伺っていくうちに、「学生として一度被災地へ行ってみたい」とお考えの方が多くということがわかり、私は5月上旬に宮城県、9月中旬に岩手県でボランティアをさせていただきました。前者では避難所での衛生環境チェック、後者では被災して荒れてしまった土地の草刈りと、全く違う活動をしました。様々な境遇で被災された方々の生の声を伺うことができました。被災地ではまだまだ人手不足なので、薬学生だからと仕事内容を選び好みせず、現地で必要とされていることを積極的に行い、その中で自分が薬剤師になった時に被災地で何ができるか、考えてみると良いと思います。



避難所から見た景色



陸前高田市のボランティアセンターにて(筆者)

理想の医療者像とは

私たちは毎回インタビューの最後に、“医療従事者としてあるべき理想像”について伺ってきました。その中で、新たに私が大事だと感じたことは、「大学での学びを疎かにしないこと」です。学生時代にどんなに課外活動に励んでも、薬剤師としてのスキルが乏しかったら誰にも頼ってもらえませんし、被災地等に行っても役に立ちません。また、インタビューを通じて、6年制の学科を卒業する薬学生は、現場から大きな期待を寄せられていることを実感しました。私たちはその期待に応え、6年制卒の薬剤師にできることをこれからどんどん薬剤師間だけでなく、医療従事者間そして社会にアピールしていかなければいけません。個人のスキルは各々で高め、このようなアピールは皆で団結して行っていくことが重要だと感じています。薬学生ニュースをご覧の皆様とも、これからの被災地支援や薬剤師の在り方について、一緒に考えていけたら光栄です。

ホームページ

URL: <http://keio-mss.com/>

今後の活動等は全てこちらでお知らせいたします。

どんなことでもお気軽にお問い合わせください。